

財 団 報

Astellas Foundation for Research on Metabolic Disorders

2011.9 No. 4

目 次

ご挨拶	理事長 児玉 龍彦	1
I 平成 22 年度事業報告		
1. 年間の経緯		2
2. 事業について		
1) 助成事業		4
2) 研究報告会		7
3) 第 40 回助成研究報告集		9
3. 会計報告		10
II 平成 22 年度 最優秀理事長賞受賞者、研究助成金・留学補助金交付者からのお便り		11
最優秀理事長賞	石井 優、藤木 亮次	
研究助成	嘉糠 洋陸、坂井 貴臣、白土 明子、末次 志郎、塚原 完、 中川 祐子、新田 淳美、真壁 幸樹、丸山 博文、山田 健一、 綿田 裕孝	
海外留学	岩淵 - 土井 真木子、金澤 英明、川久保 友世、佐々木 伸雄、 佐藤 賢文、高井 裕子、武田 朱公、中川 嘉、松尾 由理	
III 財団概要		34
1. 沿革		34
2. 目的		34
3. 事業		34
4. 事業内容		34
5. 組織と人員		35
6. 評議員・役員		36
設立趣意書		37
IV ご寄付の報告とお願い		38
V 東日本大震災後の対応		39
編集後記		41

公益財団法人アステラス病態代謝研究会

— 注記 —

- ◆ この財団報は、平成23年（2011年）6月11日開催の平成23年度第1回定例理事会において承認された「平成22年度事業報告書」に基づき、当財団の平成22年度（2010年4月1日～2011年3月31日）の事業内容を取りまとめたものです。
- ◆ 本報告書・助成対象一覧の所属機関は、研究助成金は交付時、海外留学補助金については申請時のものであり、それ以降の変更は原則として反映させていません。

津波から考える： 属性でなく本質をみる科学を

児玉 龍彦

公益財団法人アステラス病態代謝研究会 理事長



大学のアイソトープ総合センター長を併任している関係で、津波と原発事故の2重の重荷をせおった福島県南相馬市に毎週末、支援にいらっている。といっても教育委員会の要請で、幼稚園や保育園の庭や教室の放射線量を測り、高いところを除染している程度である。

津波に襲われた一帯は、何もない広大な土地となり、当初あった泥とがれきは整理され、何もない夏草の原っぱが延々とひろがっている。

ここで500名の生命が一瞬に失われたと考えると言葉もない。

この大津波は想定外であったといわれる。だが、津波についての本質を理解する専門家はそうではないという。

通常、我々が見る波と、津波とは作られるメカニズムが全く違う。通常の波は、海の上の風と、海水の摩擦により生まれる。そこでは、強い風が吹けば吹くほど激しい波が作られるが、そのエネルギーは津波と比べたら非常に小さい。津波は、海底の大きなプレートが、沈み込み、持ち上がるのに伴って起こり、とてつもないエネルギーをもつ。

通常の波は、大きな物で周期が10秒程度で、幅が150m程度である。それに対して、津波は、大きなものであれば1時間以上、幅は100kmをこえる。そこで沖合では数メートルの津波であっても、岸に近づき、海底の形や入り江の形がかわると高さは急激に高くなり、20m、30mという津波は例外的ではないことが知られる。

高さというと、沖合での波の高さという属性に目を奪われやすい。そこでは、普通の波と津波とは、数メートルと似て見える。だが、地震をひきおこすプレートの変化と、それがひきおこす津波のエネルギーという本質をもとに考えると、海岸を襲う津波の高さの想定不可能なほど大きくなる事が理解される。

それでも想定外ともいえる規模では、専門家は無力であったであらうか。石巻市防災アドバ

イザーの片田教授は、釜石市とともに、「手引き」を作り、小学校のこどもに3つのことを伝え続けてきたという（朝日新聞3月23日朝刊）

「揺れたら家にむかわず、とにかく逃げろ」「ハザードマップを信じず、状況を見て判断すること」「そして人を助けること」

こうして小学生は中学生と合流し、1kmを走り、避難場所の高台の介護施設にいき、さらに迫る波をみて、さらに上まで逃げた。この結果、校内にいた中学生212人と小学生350人は、1名も死ななかった。

ハザードマップを信じず、とにかく状況をみて、できる限り早く、高く逃げろという「手引き」が、世界の歴史からの知恵を子どもに授けたといえよう。

医学の世界では最近エビデンスと標準治療という言葉が使われる。だが、エビデンスというと、過去の津波から、次におこる津波を統計処理した、原子力学会の土木委員会の議論とよく似た側面をもってしまうことが多い。

病気の予測も、検査の数値をもとにしてもあたらない事が多い。むしろ津波から子どもを助けた、「手引き」のような、病気の本質を踏まえた治療法が、命を助ける手段として求められる。

アステラス病態代謝研究会は、第二次大戦後、日本の復興は科学の振興なくしてありえない、という先人の魂で生まれた。その志を受け継ぎ、事務局の方がリーダーシップをとられ、前例のない東北大震災緊急助成を科学の復興のためにまず70名規模でおこなった。竹中前評議員会長と石井現評議員会長のご決断で第二回20名の助成を、地震直後2ヶ月に行った。反省すべき点も多いが、皆様の協力で一気に行い、公益財団法人というものの本質を始めて見た。それは、競争を属性とする科学は、国民の共有財産という本質をもつということではなかったかと考えている。

(2011年8月 記)

I 平成22年度事業報告

1 年間の経緯

平成22年（2010年）

4月1日 公益財団法人移行登記 財団名称をアステラス病態代謝研究会に変更
☆公益財団法人移行申請書に記載した体制でスタート

評議員：磯部 稔、江端貴子、神谷一夫、佐藤公道、猿田享男
杉山雄一、竹中登一、田嶋尚子、長嶋憲一、野田哲生
の各氏就任

理事：児玉龍彦（代表理事）、石井康雄（業務執行理事）、
市川 厚、堅田利明、倉智嘉久、郷 道子、杉浦幸雄、
須田年生、清野 進、塚本紳一、武藤誠太郎の各氏重任
門脇 孝、後藤由季子、藤井信孝、泉二登志子の各氏就任

監事：大山悦夫、永井 修の各氏重任

平成22年度研究助成金・海外留学補助金申請の応募要領公開

4月17日 臨時理事会

- 学術委員選任の件

一條秀憲、稲葉俊哉、井上将行、上田啓次、大隅典子、大谷直子、
小川久雄、小川佳宏、尾崎紀夫、笠井清登、熊ノ郷 淳、
後藤由季子、塩見美紀子、高柳 広、竹居孝二、徳山英利、
中里雅光、長澤寛道、長野哲雄、中村栄一、中山俊憲、
根岸 学、三輪聡一、山本一夫、若槻壮市の各氏が就任

- 事務局長選任の件

山下道雄が事務局長退任・参与就任、石川 弘が新事務局長就任

- 研究助成資金規程改定案の承諾の件

- 平成22年度事業計画および収支予算書の追認の件

- 「アステラス病態代謝研究会内部規定・規則」追認の件

- 任期満了に伴う次期理事・監事候補者推薦の件

- 臨時評議員会招集の件

- 定時評議員会招集の件

4月27日 臨時評議員会

- 評議員会長選出の件

評議員の互選により、竹中登一氏が評議員会長に就任

- 理事、監事任期満了に伴う改選および選任の件

（現理事・監事は6月の定時評議員会終結の時をもって任期満了）

次期理事15名：（定時評議員会終結の時に就任）

石井康雄、小川久雄、堅田利明、門脇 孝、倉智嘉久、
児玉龍彦、後藤由季子、杉浦幸雄、須田年生、
塚本紳一、中里雅光、長野哲雄、藤井信孝、泉二登志子、
武藤誠太郎の各氏

次期監事2名：（定時評議員会終結の時に就任）

大山悦夫、永井 修の各氏

- 研究助成資金規程改定案の承認の件

- 臨時理事会報告の件
- 定時評議員会開催の件
- 6月19日 臨時学術委員会
 - 学術委員会長選任の件
学術委員の互選により、後藤由季子氏が学術委員会長に就任
 - 学術委員3名退任に伴う後任学術委員推薦の件
 - 平成22年度評価ガイドライン修正案(理事会への提出)承認の件
- 第1回定例理事会
 - 平成21年度事業報告、収支報告承認の件
 - 学術委員3名退任に伴う後任学術委員選出の件
袖岡幹子、南 雅文、柳田素子、山下敦子の4氏が就任
(注記) 公益財団法人移行登記の前日(平成22年3月31日)をもって、旧法人で本学術委員と同様の役割を担っていた旧評議員職は消滅。うち4名が4月1日に理事に就任し、それ以外の方々は4月17日の臨時理事会で学術委員に選任された。今回、学術委員会の推薦、理事会の承認を経て、増員分1名を加えた上記4名が選出された。
 - 平成22年度評価ガイドライン修正案承認の件
 - 平成22年度選考委員選出の件
- 6月25日 定時評議員会
 - 平成21年度事業報告、収支報告承認の件
 理事3名任期満了でご退任(市川 厚、郷 道子、清野 進の各氏)
- 8月 1日～31日
研究助成金・海外留学補助金申請書の選考委員個別評価
- 9月30日 財団報(No.3)発行
- 10月16日 第41回研究報告会
 - 平成21年度(第41回)研究助成交付者65名
- 第1回選考委員会
 - 平成22年度研究助成金および海外留学補助金交付者選出・交付総額の件
- 第2回定例理事会
 - 平成22年度研究助成金および海外留学補助金交付者・交付総額承認の件
 - 海外留学助成金交付規程の改定案承認の件
- 11月 1日 平成22年度研究助成金交付者発表
- 12月 2日 平成23年度公募要領・評価ガイドライン検討会開催

平成23年(2011年)

- 2月 5日 第1回学術委員会
 - 平成23年度応募要領・申請規程および評価方法ガイドラインの件
- 第3回定例理事会
 - 平成22年度事業報告・収支報告承認の件
 - 平成23年度事業計画・収支予算書(案)承認の件
 - 平成23年度応募要領および評価方法ガイドライン承認の件
 - 平成23年度選考委員選任の件
 - 第42回研究報告会開催承認の件
- 3月 1日 平成22年度海外留学補助金交付者発表
- 3月31日 第40回助成研究報告集発行(東日本大震災の影響で納品は4月13日に)

2 事業について

1) 助成事業

i) 研究助成金

公募のテーマを「疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究」と定め、平成22年5月1日～6月30日の期間に公募を実施しました。

542名の応募があり、平成22年10月16日開催の選考委員会にて交付者候補が選出され、同日開催された理事会で対象者70名が決定されました。本決定に基づき、総額7,000万円を11月に交付しました。

ii) 海外留学補助金

平成22年5月から平成23年4月の期間に留学を開始する研究者を対象として平成22年5月1日～6月30日の期間に公募を実施しました。116名の応募があり、平成22年10月16日の選考委員会で交付候補者10名が選出され、同日開催された理事会で内定者10名が決定されました。

なお、その後、内定者の中に日本学術振興会からの助成金交付が決定したり、他の民間財団から合わせて200万円以上の助成金交付が決定したりしたことにより当財団からの交付を辞退される方が複数名出ました。その都度、次点者を順次繰り上げ、平成23年2月末に10名の交付者を最終的に確定することができ、総額2,000万円を交付しました。

平成22年度研究助成金・海外留学助成事業公募

研究助成金・海外留学補助金申請者数・交付者数・交付金額

項 目	申請者数 (女性数)	交付者数 (女性数)	交付金額
			研究助成金1件：100万円 海外留学補助金1件：200万円
研究助成金	542名 (102名)	70名 (14名)	7,000万円
海外留学補助金	104名 (13名)	10名 (4名)	2,000万円
総 計	646名	80名	9,000万円

平成22年度研究助成金 交付者一覧

テーマ：疾患の解明と画期的治療法の開発に関する研究（70名）

（五十音順・敬称略）

No.	氏名	所属機関（交付時）	研究テーマ
1	あらい さとこ 新井 郷子	東京大学大学院 医学系研究科 疾患生命工学センター 分子病態医科学部門	脂肪融解タンパク質AIMによるメタボリックシンドローム制御の研究
2	あらい まこと 新井 誠	東京都精神医学総合研究所 統合失調症・ うつ病研究プロジェクト	精神疾患のカルボニルストレスに関わる分子基盤を解明し、 回避機序を明らかにすることで、革新的な治療法・予防法を確立
3	あら木 としゆき 荒木 敏之	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第五部	糖尿病性末梢神経障害における蛋白糖化修飾の意義
4	いけだ はなこ 池田 華子	京都大学 医学部附属病院 眼科学教室	モデル動物を用いた網膜リアルタイムイメージング法の開発と応用
5	いしい こうじろう 石井 浩二郎	大阪大学大学院 生命機能研究科 染色体機能制御研究室	端部着糸型染色体モデルを用いたロバートソン転座機構の解析
6	いした とおる 石谷 太	九州大学 生体防御医学研究所 細胞統御システム分野	シグナル可視化ゼブラフィッシュSLIZを利用した シグナル伝達の生理学的機能の網羅的解析
7	いとう もとゆき 伊藤 素行	名古屋大学大学院 高等研究院 神経形成シグナル	細胞集団の移動におけるNotchシグナルの機能
8	いなが まさき 稲垣 昌樹	愛知県がんセンター研究所 発がん制御研究部	細胞増殖と分化の両局面で異なる機能を果たす新規分子群の研究
9	いわざ たかし 岩崎 崇	鳥取大学 農学部 生物資源環境学科 生体制御化学分野	腫瘍組織内環境を標的とした低pH環境応答型 薬物輸送ペプチドライブラリの構築と応用研究
10	いまま あつし 岩間 厚志	千葉大学大学院 医学研究院 細胞分子医学	ポリコム複合体の翻訳後修飾を介した幹細胞制御機構の解明
11	おおすみ みほ 大杉 美穂	東京大学 医科学研究所 癌細胞シグナル分野	分裂期染色体分配における中心体の役割 ～中心体の有無で何が変わるのか～
12	おかの けんたろう 岡野 健太郎	東北大学大学院 薬学研究科 創薬化学専攻	ベンザインを経由するワンポット連続的環化-官能基化に基づく 多置換複素環骨格構築法の開発と生体活性天然物の革新的全合成
13	かたぎり こうこ 片桐 晃子	関西学院大学 理工学部 生命科学科	Rassf5-Mst1シグナルのリンフォーマ、 肺癌、肝癌発症を抑制する分子機構の解明
14	かぬか ひろたか 嘉糠 洋陸	帯広畜産大学 原虫病研究センター 節足動物衛生工学分野	ストレス応答性MAPキナーゼp38による感染トランスの制御
15	かわぐち やすし 川口 寧	東京大学 医科学研究所 感染症国際研究センター ウイルス学分野	従来にないユニークな性状を呈する新規受容体を 介したヘルペスウイルス侵入機構の解析
16	かわさき ひろし 河崎 洋志	東京大学大学院 医学系研究科 神経機能解明ユニット	感覚神経系を用いた選択的神経回路の形成メカニズム解析
17	かわはら ゆきお 河原 行郎	大阪大学大学院 医学系研究科 遺伝子機能制御学教室	血清マイクロRNAを用いた急性心筋梗塞の二次予防法の確立
18	きたむら 忠弘	群馬大学生体調節研究所 代謝シグナル研究展開センター	膵α細胞を制御する分子メカニズムの解明 ～将来の新しい糖尿病治療法の開発を目指して～
19	きむら ひろあき 木村 博昭	自治医科大学 分子病態治療研究センター バイオイメージング研究部	生活習慣病の発症基盤である免疫炎症反応の解析： メタボリック症候群における免疫プロテオームの役割の解明
20	くまがい なおや 熊谷 直哉	微生物化学研究会 微生物化学研究所 柴崎研究室	C型肝炎ウイルス増殖抑制剤の創製を志向した SPT阻害剤の効率的な不斉合成
21	くわはら こういちろう 桑原 宏一郎	京都大学大学院 医学研究科 内分泌代謝内科	病的心筋リモデリングにおける受容体活性化型Ca ²⁺ チャンネルTRPC6を 介したシグナルクロストークの意義の解明
22	こいずみ しゅういち 小泉 修一	山梨大学大学院 工学工学総合研究部 医学学域 薬理学講座	網膜神経節細胞の生存・機能制御における 視神経グリア細胞の役割に関する研究
23	こまご ひでたか 小迫 英尊	徳島大学 疾患酵素学研究センター 疾患プロテオミクス研究部門	リン酸化プロテオーム解析法の開発によるプロテインキナーゼの 標的基質の網羅的特定とその機能制御機構の解明
24	こしば かずこ 小柴 和子	東京大学 分子細胞生物学研究所 エビゲノム疾患センター 心循環器再生研究分野	クロマチンリモデリング因子を介した心肥大発症メカニズムの解明
25	こだに しんや 小谷 真也	静岡大学創造科学技術大学院 統合バイオサイエンス部門	医薬品への応用を目指した新しい放線菌ランチビオティックの探索
26	こうとう さとし 後藤 聡	慶應義塾大学 医学部 生理学教室	多様で特異的な翻訳後修飾を制御するゴルジュユニットの形成メカニズム
27	さいとう あつし 齋藤 敦	宮崎大学 医学部 解剖学講座 分子細胞生物学分野	脳神経系における小胞体ストレス応答機構の 解析と精神疾患治療基盤の創生
28	さいとう くにあき 齋藤 都暁	慶應義塾大学 医学部 分子生物学教室	トランスポゾン抑制因子piRNAによる生殖細胞ゲノムの恒常性維持機構
29	さかい たかおみ 坂井 貴臣	首都大学東京大学院 理工学研究科 生命科学専攻 細胞遺伝学研究室	パーチャルリリティモデルによる行動可塑性の分子細胞基盤の解明
30	しげなが あきら 重永 章	徳島大学大学院 ヘルスバイオサイエンス研究部 (薬学系) 機能分子合成薬学分野	蛋白質の精製およびラベル化を同時に可能とする トレーサブル釣り竿分子の開発
31	したしげ みき 下重 美紀	国立がん研究センター研究所 化学療法部	大規模プロテオーム解析による 大腸がん制御機構の解明と分子標的治療薬の開発
32	しみず きみこ 清水 貴美子	東京大学大学院 理学系研究科 生物化学専攻 神経機能生化学教室	脳高次機能が日周リズムをもつ分子メカニズムの解明
33	しらつち あきこ 白土 明子	金沢大学 医薬保健研究域薬学系 生体防御応答学	自然免疫としての食食殺菌からの抵抗を制御する大腸菌および 黄色ブドウ球菌遺伝子の網羅的解析
34	すまつぶ しろう 末次 志郎	東京大学 分子細胞生物学研究所 細胞形態研究分野	癌浸潤突起における細胞膜の形態形成機構の研究

35	すずき あきら 鈴木 聡	九州大学 生体防御医学研究所 ゲノム機能制御学部門 ゲノム腫瘍学分野	MATS遺伝子による発生・発がん制御
36	すずき あつし 鈴木 淳史	九州大学 生体防御医学研究所 器官発生再生学分野	肝幹細胞におけるmicroRNAの機能と制御
37	たかはし ちあき 高橋 智聡	金沢大学 がん研究所 がん幹細胞研究プログラム 腫瘍分子生物学研究分野	がん幹細胞標的薬探索のためのin vitroがん幹細胞モデル系の開発
38	たかわら しき 高村 史記	近畿大学 医学部 免疫学教室	レトロウイルスによる新規免疫逃避機構の解明
39	たかやま ゆうこ 高山 優子	久留米大学 分子生命科学研究所 細胞工学研究部門	S期進行モニターの分子解明
40	たくみ とおる 内匠 透	広島大学大学院 歯歯薬学総合研究科 統合バイオ研究室	自閉症ヒト型モデルマウスの異常シグナル伝達系の解析
41	たけしま ひろ 竹島 浩	京都大学大学院 薬学研究科 生体分子薬学講座	小胞体TRICチャネル欠損マウスの高血圧の病態を解明し、 ヒトTRIC遺伝子多型と本態性高血圧の関連を究明する
42	たけだ こうじろう 武田 鋼二郎	沖縄科学技術大学院大学先行研究プロジェクト 柳田GO細胞ユニット	タンパク質分解系の協調による ミトコンドリア品質管理と静止期細胞の寿命維持
43	たなか ともあき 田中 知明	千葉大学大学院 医学研究院 細胞治療学講座	分子間架橋技術を応用したp53転写因子複合体による クロマチン/エピジェネティクス制御機構の解明
44	たなか ふじえ 田中 富士枝	京都大学 化学研究所 物質創製化学研究系	アミノ酸媒を用いる官能基化された分子の不斉合成
45	つかはら たもつ 塚原 完	信州大学 医学部 統合生理学教室	環状ホスファチジン酸の核内受容体アンタゴニスト活性を利用した 新生内膜形成の抑制と動脈硬化症の予防および治療法の開発
46	とうはら かずしげ 東原 和成	東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 生物化学研究室	鼻以外で発現する嗅覚受容体の機能の解明
47	とこよだ こうじ 常世田 好司	千葉大学大学院 医学研究院 免疫発生学	生体内における免疫記憶の成立維持メカニズムの解明
48	ないとう みきひこ 内藤 幹彦	国立医薬品食品衛生研究所 機能生化学部	病原性タンパク質の特異的分解に基づく創薬科学研究
49	なかおか よしかず 中岡 良和	大阪大学大学院 医学系研究科 循環器内科学	Angiopoietin-1による心臓の組織恒常性維持の分子機構
50	なかがわ ゆうこ 中川 祐子	群馬大学 生体調節研究所 細胞調節分野	膵β細胞に発現する甘味受容体を標的とした創薬戦略の確立
51	なかむら ゆかこ 中村 由嘉子	名古屋大学大学院 医学系研究科 精神医学分野	妊産婦を対象とした前向きゲノムコホート研究
52	なかやま こう 中山 恒	東京医科歯科大学 難治疾患研究所 MTTプログラム	低酸素癌の増殖と転移のタイミングを決める分子機構の解析
53	にしに ともえ 西谷 友重	国立循環器病研究センター 研究所 分子生理学部	神経において重要な役割を担うCa ²⁺ 結合タンパク質NCS-1の 心臓における役割の解明
54	にした あつみ 新田 淳美	富山大学大学院 医学薬学研究部 薬物治療学研究室	中枢神経系でのピッコロ分子の生理機能解明と臨床応用への可能性
55	にした たけし 新田 剛	徳島大学 疾患ゲノム研究センター 遺伝子実験施設	胸腺皮質上皮細胞の分化メカニズムの理解に基づく T細胞のレパトリー制御
56	にわ ゆうすけ 丹羽 隆介	筑波大学大学院 生命環境科学研究科 「次代を担う若手大学人育成イニシアティブ」	ステロール感受ドメインを持つ新規12回膜貫通型タンパク質の コレステロール動態調節における機能の解明
57	ひし せいじ 等 誠司	生理学研究所 分子神経生理学部	ヒストンユビキチンリガーゼBre1による神経幹細胞の増殖・分化の制御
58	ひろせ てつろう 廣瀬 哲郎	産業技術総合研究所 バイオメディカル情報研究 センター 機能性RNA工学チーム	疾患関連非コードRNAと結合タンパク質の機能的相互作用部位の解析
59	ふじお けいし 藤尾 圭志	東京大学 医学部附属病院 アレルギー・リウマチ内科	B細胞抗体産生を抑制する CD4陽性CD25陰性LAG3陽性制御性T細胞の解析
60	まかべ こうき 真壁 幸樹	岡崎統合バイオサイエンスセンター 生体分子物性研究室	蛋白質工学的なアプローチによるアミロイドの 基本骨格構造形成の物理化学的基盤の解明
61	まらい ひさお 正井 久雄	東京都臨床医学総合研究所 ゲノム動態プロジェクト	染色体ダイナミクスの可塑性を制御する分子メカニズムの解明
62	まつの けんじ 松野 健治	東京理科大学 基礎工学部	2つの器官原基の相互作用により誘導される 器官形成の機構に関する研究
63	まなべ たかゆき 真部 孝幸	藤田保健衛生大学 総合医科学研究所 遺伝子発現機構学	脳疾患とスプライシング異常、脳発達、神経分化、神経再生
64	まるやま ひろふみ 丸山 博文	広島大学 原爆放射線医科学研究所 分子疫学研究分野	筋萎縮性側索硬化症の新規原因遺伝子Optineurin変異による モデルマウスの作製
65	みなみ やすひろ 南 康博	神戸大学大学院 医学研究科 生理学細胞生物学講座 細胞生理学分野	Wnt5aとその受容体Ror2を介するシグナルによる 細胞膜と核膜の形態・機能の制御機構解析
66	やま としき 八木 俊樹	東京大学大学院 医学系研究科 生体構造学研究室	微小管細胞骨格の剛性・弾性を司る新規東化因子の 同定および構造と機能の解析
67	やまだ けんいち 山田 健一	九州大学大学院 薬学研究科 機能分子解析学	生活習慣病に関わる生体レドックス変動の検出と予防法の開発
68	やまなし ゆうじ 山梨 裕司	東京大学 医科学研究科 腫瘍抑制分野	神経筋シナプスの形成・維持に必須の Dok-7/MuSK/Lrp4シグナルの解明
69	わただ ひろたか 綿田 裕孝	順天堂大学 医学部 内科学・代謝内分泌学	妊娠時の膵β細胞容積増加のメカニズムの研究
70	わたなべ ともひろ 渡邊 智裕	京都大学大学院 医学研究科 消化器内科学	自然免疫システムの制御を用いた炎症性腸疾患の新規治療法の開発

海外留学補助金交付者一覧（10名）

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関（申請時）	研究テーマ
いわふち とい まきこ 岩渕-土井 真木子	大阪大学大学院 生命機能研究科 形態形成研究室	パイオニア因子Foxに依存したエピジェネティック制御による、 内胚葉組織分化の方向付け
かなざわ ひであき 金澤 英明	慶応義塾大学 医学部 循環器内科	虚血性心筋症に対する心筋幹細胞を用いた新しい心筋再生療法の確立
かわくぼ ともよ 川久保 友世	九州大学大学院 薬学研究院 創薬科学部門 プロテアーゼ疾患制御学研究室	周産期・発育期脳障害の可塑性におけるリソソーム酵素の役割
ささき のおお 佐々木 伸雄	国立遺伝学研究所 発生工學研究室	小腸幹細胞の未分化性維持機構における Lgrファミリーの機能解析とヒト癌幹細胞の同定へむけた基盤研究
さとう よりふみ 佐藤 賢文	京都大学 ウイルス研究所 附属ヒトレトロウイルス研究施設 ウイルス制御研究領域	成人T細胞白血病に対するウイルス抗原HBZを標的とした 免疫療法確立へ向けた基盤研究
たかい ゆうこ 高井 裕子	東京都臨床医学総合研究所	MCM2-7複合体を中心とした複製複合体の分子構築と制御機構の解析
たけだ しゅうこう 武田 朱公	大阪大学大学院 医学系研究科 臨床遺伝子治療学	脳血管病態に着目したアルツハイマー病の新規診断・治療法の開発
なかがわ よしみ 中川 嘉	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 診断生化学	低分子化合物を用いた小胞体ストレスを標的とした 糖尿病治療法とイメージングによるその評価機構の開発
まつお ゆり 松尾 由理	北里大学 薬学部 薬理学教室	脳虚血後の神経新生の機序と役割の解析
みよし のりかつ 三吉 範克	大阪大学大学院 医学系研究科 消化器外科学講座	消化器癌細胞のエピジェネティック修飾異常について

2) 研究報告会

平成21年度（第41回）研究助成金交付者65名による研究報告会を、平成22年10月16日、東京・経団連会館にて開催いたしました。また、研究報告会において発表された研究の中から、特に優れた研究（2件）に対し最優秀理事長賞として賞状および副賞（1件100万円、総額200万円）を交付しました。

研究報告会風景



児玉理事長開会の辞



質疑応答

第41回 研究報告会

***日 時:** 2010年10月16日(土) 10:40~17:40
***場 所:** 経団連会館 観音ホール5階(観音 6-45~)
東京都千代田区大手町1-3-2
 〒100-0001 (03) 6741-0222

・ 研究報告会 (6部)
 第1部 10:40~12:30
 第2部 12:40~14:30
・ 特別報告会 (2部) 経団連ホール 12:30~12:50
・ 交歓会 (2部) 経団連ホール 12:50~13:40

※ 聴衆皆様よりご質問等の受付へ※

1. 本報告会の開催により、御社に御報告等に関する御報告のお願いをさせていただきます。
2. 本報告会の開催にてP-CAMO-Pを御覧いただけますので、必ずご報告の上、御社にお知らせください。
3. クロージング、懇親会等 2部にてご報告いたします。

公益財団法人アステラス病態代謝学研究会

研究報告会プログラム表紙



発表風景



交流会風景（平成22年度から実施）

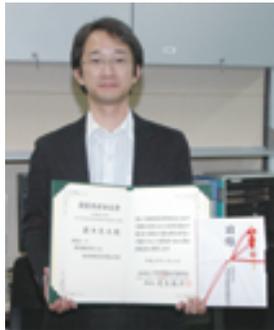
第41回最優秀理事長賞 2名（1件 100万円）

（五十音順・敬称略）

受賞者名	所属機関（受賞時）	研究テーマ
いし まさる 石井 優	大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 生体イメージング研究室	破骨細胞の遊走・位置決りを標的とした 新しい骨吸収性疾患治療薬の開発
ふじき りょうじ 藤木 亮次	東京大学 分子細胞生物学研究所 核内情報研究分野	核内糖修飾による血球細胞分化制御の応用



石井優先生



藤木亮次先生



賞状フォルダー

3) 特別講演

前年度の研究助成金交付者による研究報告会では毎回、昼食後の時間帯に当財団役員による特別講演を行ってまいりました。今回は当財団理事であります京都大学大学院 薬学研究科 特別教授 藤井信孝先生による特別講演「大学における創薬研究」を実施いたしました。研究会にご出席の多くの研究者がご聴講くださいました。



経団連ホールでの講演風景



藤井信孝先生

4) 第40回助成研究報告集

平成20年度（第40回）研究助成金のもと実施されたご研究をまとめた報告集「第40回助成研究報告集」を、平成23年3月に発刊しました（実際には東日本大震災の影響でCD-ROM製造が遅れ、4月13日納品）。

この報告集は平成20年度に研究助成を受けられた方々から、平成22年10月までにご報告いただいた研究成果をまとめたものです。

なお、平成19年度から海外留学補助金交付者にも交付1年後に研究成果報告の提出を義務付けましたが、それ以前の交付者から自主的に成果報告や近況報告をお送りくださる場合がございます。それらにつきましても、この報告集に収載することとしました。

また、第39回と第40回の研究報告集は、当財団ホームページの「その他」→「刊行物」サイトにて電子ブック形式で公開しております（P40参照）。



3 会計報告（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

1) 貸借対照表（平成23年3月31日現在）

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 資産の部			
1. 流動資産			
預金	20,496,938	5,819,473	26,316,411
流動資産合計	20,496,938	5,819,473	26,316,411
2. 固定資産			
(1) 基本財産	2,343,325,960	0	2,343,325,960
投資有価証券（株式含む）	1,834,504,468	0	1,834,504,468
預金	508,821,492	0	508,821,492
(2) 研究助成資金	800,550,346	0	800,550,346
投資有価証券	732,286,560	0	732,286,560
預金	68,263,786	0	68,263,786
(3) その他固定資産	0	523,600	523,600
什器備品	0	571,200	571,200
減価償却累計額	0	△ 47,600	△ 47,600
固定資産合計	3,143,876,306	523,600	3,144,399,906
資産合計	3,164,373,244	6,343,073	3,170,716,317
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	247,013	131,878	378,891
流動負債合計	247,013	131,878	378,891
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	247,013	131,878	378,891
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	26,450,000	4,000,000	30,450,000
指定正味財産合計	1,078,398,808	△ 843,159	1,077,555,649
（うち基本財産への充当額）	277,005,960	0	277,005,960
（うち研究助成資金への充当額）	800,550,346	0	800,550,346
2. 一般正味財産	2,087,456,306	5,325,471	2,092,781,777
（うち基本財産への充当額）	2,066,320,000	0	2,066,320,000
正味財産合計	3,165,855,114	4,482,312	3,170,337,426
負債および正味財産合計	3,166,102,127	4,614,190	3,170,716,317

2) 正味財産増減計算書

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益	114,440,183	5,349,409	119,789,592
(2) 経常費用			
①事業費	111,741,172	0	111,741,172
②管理費	0	7,196,964	7,196,964
経常費用計	111,741,172	7,196,964	118,938,136
評価損益等調整前当期経常増減額	2,698,711	△ 1,847,555	851,156
基本財産評価益	△ 16,470,000	0	△ 16,470,000
当期経常増減額	△ 13,771,289	△ 1,847,555	△ 15,618,844
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 13,771,289	△ 1,847,555	△ 15,618,844
一般正味財産期首残高	2,101,227,595	7,173,026	2,108,400,621
一般正味財産期末残高	2,087,456,306	5,325,471	2,092,781,777
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	26,450,000	4,000,000	30,450,000
基本財産運用益	11,242,125	0	11,242,125
研究助成資金運用益	7,908,707	0	7,908,707
基本財産評価益	△ 27,430,785	0	△ 27,430,785
一般正味財産への振替額	△ 92,736,431	△ 4,843,159	△ 97,579,590
当期指定正味財産増減額	△ 74,566,384	△ 843,159	△ 75,409,543
指定正味財産期首残高	1,152,965,192	0	1,152,965,192
指定正味財産期末残高	1,078,398,808	△ 843,159	1,077,555,649
III 正味財産期末残高	3,165,855,114	4,482,312	3,170,337,426